

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670102534号		
法人名	有限会社 いこいの広場		
事業所名	グループホーム いこいの広場		
所在地	鹿児島市坂之上4丁目4番33号 (電話) 099-210-8230		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月4日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5人, 非常勤 8人, 常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日1,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	
年齢	平均 81歳	最低 68歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂之上生協クリニック・坂之上病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静で自然環境に恵まれた住宅地に位置し、温かい家庭的な雰囲気を大切にしているホームである。入居者の「野菜をつくりたい」という何気ない会話から早速畑をつくり、共に野菜の成長や収穫を楽しむなど、入居者の意向を汲み取り役割をもって楽しく暮らせるような最善の支援をしている。職員は入居者の目線で話しかけ、返事を待ってケアをし、入居者一人ひとりが穏やかでくつろぎある生活をしている。本人本位の日々のケアや健康管理などが適切にされている。ホーム2階に管理者夫婦が居住し、また、かかりつけ医や近隣者が気軽に訪問するなど地域に根ざした安心感あるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	夜間想定避難訓練の実施や災害時の近隣者との連絡・協力体制づくりなど改善されている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の一連の流れを通して、日々のケアを振り返る気付きの機会となっている。自己評価は、全職員で取り組み意見を集約している。評価を活かし、職員は足りないこと、必要なことを討議し質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホームの行事や日常生活・取り組みなどの報告をしたり、避難訓練について夜間想定などや地域の協力依頼などを協議している。ホームの看板設置や地域の協力が推進されるなど出された意見を活かし質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や電話連絡などで、入居者の状況を報告しながら、家族の意見を引き出せるように配慮している。今まで大きな苦情などはでていないが、個々の入居者についての要望や意見などは出されており、出された意見は職員で検討し取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して、十五夜・みこしかつぎ・夏祭りなど、地域の行事に参加したり見学をしている。子供たちや近隣者・ボランティアなどの訪問もある。近隣者とは気軽に声をかけあう関係作りができていて、災害時の協力も依頼してある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくりと楽しく過ごしていただく」「明るい環境の中での笑顔に共感」「家族や地域交流を大切にする」職員で思いを共有し、つくりあげた事業所独自の地域密着型サービスとしての理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に、職員採用時や月例の職員会議・日々の支援のなかで理念をもとに話をし、理念の共有を図っている。職員は、その人らしく過ごせるよう理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、十五夜・みこしかつぎ・夏祭りなど地域の行事に参加・見学をしている。子供たちや近隣者・ボランティアなどの訪問もある。近隣者とは気軽に声をかけあう関係作りができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の流れを通して、日々のケアを振り返る気付きの機会となっている。自己評価は、全職員で取り組み意見を集約している。評価を活かし、職員は足りないこと、必要なことを討議し質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの行事や日常生活・取り組みなど報告をしたり、避難訓練について夜間想定などや地域の協力依頼などを協議している。ホームの看板設置や地域の協力が推進されるなど出された意見を活かし質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、事業所から定期的に出向き、常に相談連携を図れるよう積極的な関係づくりに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りに一筆添えるなどしたり、家族の訪問時や電話連絡などで暮らしぶりや心身の状況・金銭管理・新規職員の紹介など、定期的にまた個々の状況に応じて随時、報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話連絡などで、入居者の状況を報告しながら、家族の意見を引き出せるように配慮している。今まで大きな苦情などはでていないが、個々の入居者についての要望や意見などが出されており、意見は職員で検討し取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の大切さを理解し、離職を最小限におえるよう努めている。職員が代わる場合は、職員同士連携を図りながら、入居者個々に応じた影響を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員の経験に応じた介護全般の内部研修をしている。資格や経験・希望に応じた外部研修も交替で参加している。資格取得にむけ実技や学びの機会を提供するなど応援体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入し、管理者や職員は研修や意見交換・他の同業者への訪問など、交流する機会がある。同業者とは相談連携関係を築き、共に質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅や病院等に出向き面談し、本人や家族のホーム見学などを通して、「本人の納得したうえでの入居」を原則としている。入居後は本人や家族と相談しながら、言葉かけに配慮しゆったりとした雰囲気を心がけ、本人が徐々に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は家事や園芸など、できる力を発揮し、職員に園芸や昔の話など教えている。また子育てについて一緒に考えたり励ましあったりするなど、入居者と職員は共に生活し学び支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に、本人から思いや意向をしっかりと聞くようにしている。言葉にだせない思いは、表情やしぐさ、言動などから把握している。職員間で情報を共有し本人本位の検討に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を把握し、かかりつけ医の意見や職員間での話し合いなどから、それぞれの意見を反映させた個々に応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを、6ヶ月毎に行っている。日々の状況を把握し、3ヶ月毎のモニタリングや評価をしている。心身の状況変化に応じ、随時、関係者等と協議し介護計画を変更している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じ、通院支援や自宅訪問・墓参り等の特別な外出支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の納得が得られたかかりつけ医と信頼関係を築いており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重要事項説明書を用いてホームの対応方針等の説明をしている。入居者の状況に応じ、本人・家族・医療機関・職員と随時話し合い、対応方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、職員会議などを通して職員に意識付けを行い、日々実践している。個人情報についても周知徹底がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを考慮しながら、本人の意向や状況に応じて個々のペースを大切に柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した旬の野菜が食卓にあがるなど食事を楽しむ支援をしている。野菜の皮むき・味見・盛り付け・皿洗いなど、入居者のできることを職員と共に行い、同じ食卓で和やかに会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は週3回であるが、本人の意向や状況に応じて随時入浴ができるし、一人ひとりゆっくり入浴できるように配慮している。入浴が億劫な入居者には、声かけや雰囲気づくりを行い無理強いすることなく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味などを把握し、園芸や囲碁・習字・掃除・家事など入居者一人ひとりの役割や力を発揮する場面作りをしている。本人の意向を叶えるよう努め、毎日楽しく生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意向や状況・天候などに応じ、日常的に散歩・買い物など外出している。ドライブやみかん狩りなどの行事・公園でのお茶飲みなど外出する機会を設けている。また、ウッドデッキを活用するなどホーム内に閉じこもることのない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、入居者の様子をさりげなく把握しながら安全に配慮して、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと初期消火・通報・避難誘導等、昼・夜想定訓練を定期的に行っている。近隣者にも協力依頼をしている。また、非常時の備蓄もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状況に応じ、食事・水分摂取量の把握や、刻み・おかゆ食など食事形態も工夫している。定期的に協力病院の栄養士より栄養バランス等の助言も得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は光や音に配慮されている。ソファの配置の工夫や畳や家具・装飾品など温かい家庭的な雰囲気があり、居心地よく過ごせる工夫が随所にみられる。入居者がそれぞれ落ち着いて過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや布団・タンス・家族の写真・盆栽など、自宅にあった使い慣れたものや好みのものなどが各々持ち込まれており、安心して過ごせる個性ある居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。